



# 福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

# 学報

2020.12.10 Vol.166

### 三蔵五訓

真理を探究し、道理を实践する。  
 豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。  
 生命を尊重し、自然を畏敬する。  
 個性を伸展し、紐帯性を培う。  
 未来を志向し、可能性に挑む。



2020年12月21日竣工予定『未来創造館』

## 揺るぎなく前進！

コロナ禍と福山大学 .....	1
第46回 三蔵祭 .....	5
トピックス .....	7
地域連携活動 .....	8
本学留学生へのご支援を賜りました .....	10
活躍する教員&学生 .....	11
入試広報室から .....	15



福山大学イメージキャラクター  
「ふくりん」

## 新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応について

令和元年12月、中国において新型コロナウイルスによる肺炎が発生し、日本を含む世界各国へ感染が広がりました。国内での感染症拡大に伴い、3月6日（金）に松田文子学長を本部長とした危機対策本部を立ち上げました。その後、学位記授与式の中止及び入学式の式典中止、授業開始の延期とこれまでに経験したことのない事態が続きました。しかし、近年進めてきたICT環境の整備やPC等端末の必携化推奨もあり、オンライン授業及びオンデマンド授業（ビデオや資料を学内専用ウェブサイトで配信）による遠隔授業が5月7日（木）から開始されました。この際、学校法人福山大学は、遠隔授業の実施に係る修学環境の確保や整備等のため、全学生に対して返還義務のない奨学支援給付金（5万円）を支給しました。

また、全国に発令されていた緊急事態宣言がすべて解除され、広島県からの休業要請も解除されたため、6月22日（月）からキャンパス内での対面授業を遠隔授業と併せて開始しました。さらに、7月には本学学生の感染が確認されたため、全学生に14日間の登校禁止と外出の自粛を連絡して、授業をすべて遠隔授業に戻しました。しかし、この難局も1週間以内に福山市保健所が指名した90名のPCR検査を終了させ、全員が陰性との結果を得ることにより、克服しました。「新しい生活様式」の徹底、中でも対面授業における座席指定がこのような迅速な結果に結びつきました。これに対し、福山市保健所から「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン（職場編）」の認定証も受けました。

9月23日（水）からは、対面授業（一部授業は遠隔授業）で後期が始まりました。クラブ活動も制限付きで開始され、三蔵祭も学内関係者のみですが実施することができました。また、10月からは入試も開始され、徐々に日常を取り戻しつつあるように感じています。しかし、新型コロナウイルスはまだ終息しておらず、これからのインフルエンザの流行期を控え「新しい生活様式」による行

動を再認識してもらう意味も込めて、学校法人福山大学から全学生にマスクを配布しました。今後も学生・教職員一丸となって、過度に恐れずかつ慎重な行動で、キャンパスライフを充実したものにしていきたいと思えます。

危機対策本部副本部長 学長補佐 平 伸二



教員から一人ずつマスクを受け取る学生

対応実施月	対応内容
令和2年 3月	松田文子学長を本部長とした危機対策本部の設置
令和2年 4月	令和2年度前期授業開始時期の延期
令和2年 5月	令和2年度前期授業を遠隔授業で開始（5月7日～）
”	学校法人福山大学からすべての学生・院生へ返還義務のない奨学支援給付金（5万円）を支給
”	福山大学後援会からすべての学生・院生にマスクの配布
令和2年 6月	キャンパス内での対面授業開始（一部授業は遠隔授業を継続）
令和2年 7月	新型コロナウイルス感染者の発生に伴い遠隔授業へ移行
令和2年 8月	対面授業が必要な科目（卒論、実習など）の実施
”	福山市保健所から「福山市新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン（職場編）」認定証交付
令和2年 9月	令和2年度後期授業を対面授業で開始（一部授業は遠隔授業）
令和2年10月	学校法人福山大学からすべての学生・院生にマスクの配布
”	第46回大学祭（三蔵祭）を学内関係者だけで展示、演奏に限定して実施

# コロナ禍におけるオープンキャンパス

令和2年度のオープンキャンパス実施計画は例年通り、第1回見学会を6月27日(土)、第1回体験入学会を7月18日(土)、第2回体験入学会を8月23日(日)、第2回見学会を9月12日(土)に実施するよう計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、オープンキャンパスの実施内容を再検討・変更せざるを得ない状況となりました。

対面での入試委員会を開催することも難しく、メールを利用しての審議でオープンキャンパスの実施内容の見直し等を検討した結果、6月27日(土)と7月18日(土)は従来の方式からWebを利用した学科ライブ企画、学科個別相談、入試・学生生活個別相談を実施することに決定しました。

また、オープンキャンパス当日のライブ企画とは別に、いつでもどこでも視聴可能な福山大学の動画コンテンツを複数ホームページに掲載し、各学科の紹介を幅広く閲覧可能としました。

6月27日(土)に実施した1回目のWebオープンキャンパスには、学科ライブ企画に30名、学科個別相談に16名、入試・学生生活個別相談に18名の高校生・保護者からの参加がありました。



Webオープンキャンパスの一コマ (海洋生物学科)

7月18日(土)に実施した2回目のWebオープンキャンパスには、学科ライブ企画に79名、学科個別相談に25名、入試・学生生活個別相談に20名の高校生・保護者からの参加がありました。

広報期間等も十分でない状態での開催となったことも影響し、参加人数的には例年のオープンキャンパスと比較すると寂しい結果になりましたが、本学への進学に深く興味を持っている高校生との充実した相談等ができたのではないかと考えています。

8月・9月のオープンキャンパスは、オープンの文字を使用せずキャンパス見学会として新型コロナウイルス感染症の



キャンパス見学会の一コマ (本部)

社会的状況を確認しながら、例年実施している学食体験コーナー、キャンパス見学ツアーやガールズトークなどの企画は取り止め、密を避けるために各学科で高校生の参加人数を制限し、参加対象も高校3年生のみ、保護者の参加も1名まで、自動検温システムを利用した体温測定、マスクの着用、手指のアルコール消毒など万全の感染防止対策をとり、午前10時から12時までの2時間と午後2時から4時までの2時間の2部制として8月23日(日)と9月12日(土)の2回実施しました。



キャンパス見学会の一コマ (スマートシステム学科)

6月・7月に実施したWebオープンキャンパスと同様、広報期間等も十分でない状態での開催となったことで参加者数がどうなるかと心配していましたが、8月23日(日)に実施した第1回キャンパス見学会には、高校生296名、保証人203名の合計499名、9月12日(土)に実施した第2回キャンパス見学会には、高校生139名、保証人88名の合計227名の参加がありました。3年生のみの参加と限定したために例年の参加者総数には及びませんでしたが、8月・9月のどちらとも昨年度の同時期に開催したオープンキャンパスの3年生の参加者数を上回る結果となりました。

また、10月18日(日)はWebによる入試個別相談会を計画したところ、12名の高校生・保護者からの参加がありました。

さらに、令和3年3月13日(土)の午後からは「春の見学会」の実施を予定しています。



キャンパス見学会の一コマ (税務会計学科)

現在、当日のタイムスケジュール等については検討中ですが、タイムリーな企画として参加高校生・保護者の皆さんが令和2年12月21日(月)に竣工する「未来創造館」の見学もできるように企画中です。詳しくはホームページでご案内させていただきますので、しばらくお待ちください。

入試広報室

# オンライン授業への取り組み

## 経済学部 一教養教育科目 E群 体育—について

教養教育科目E群体育では、外出制限されている中でも可能な簡単な運動とスポーツや運動に関するレクチャーで構成するようオンライン授業を設計しました。実際には室内での簡単なトレーニングに限られていましたので、お手本となる運動を示すこととアプリや映像等を活用し、受講生が主体的に運動できるよう促しました。実技を履修している学生でしたので、積極的に取り組んでくれたと思います。また、実施内容をセレッソにて報告してもらった形式をとりました。

さらに、スポーツの知識や運動のメリットを理解できるよう毎講義スライド動画を用意し、YouTube上で受講してもらいました。授業評価アンケートのコメントをみると、「動画の中に映像が組み込まれており理解しやすい」「スポーツについての知識やポイントを学べることができた」など、このスライド動画の評価が高かったように思います。確認はセレッソの小テストにて行いました。また、対面授業が再開する際にはスポーツ庁等が制定した運動実施のガイドラインを参考に、体育実技実施のためのガイドライン動画を作成して感染防止策をとりました。

前期は4回の対面での実技となりましたが、活き活きと身体を動かしている学生を見て、オンライン授業を通じてスポーツの楽しさや身体を動かすことの大切さを伝えることができたのではと感じています。

経済学科 准教授 吉田 卓史



## 人間文化学部 『オンライン授業への取り組み』

令和2年度前期はコロナ禍のため、オンライン授業で幕を開けました。学生の皆さん、とりわけ1年生にとっては、入学早々戸惑いも大きかったと思います。例年とは異なる環境での授業のあり方について、私の担当科目「現代ヨーロッパ事情」における実践の一端を紹介いたします。



本科目の概要は、第二次大戦後から現在に至るヨーロッパ・アメリカの現代史です。授業を進めるにあたっては受講

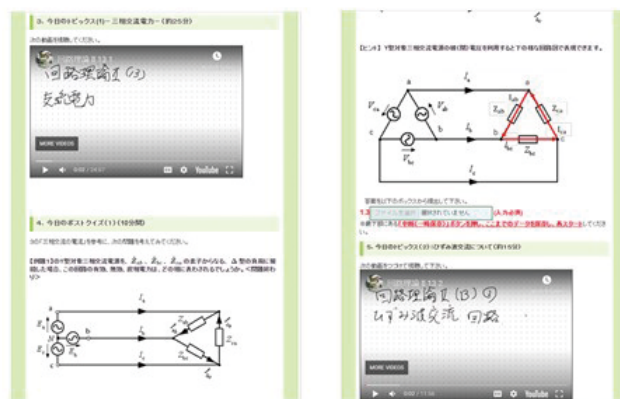
生の不安を軽減し、できるだけ内容を理解しやすくするためにいくつかの工夫を講じました。(1)時事問題についての風刺画などを含めたパワーポイント資料とレジュメを用意し、復習しやすいように努める(2)受講者が提出するコメントシートの対応に時間をかけ、できるだけ全員に返答を書く(3)コメントシートを授業資料のなかで紹介し、遠隔授業においても同じ場所で学んでいる雰囲気をつくる(4)授業内容をふまえ、現代世界について考えを深めてもらう課題を提示することです。幸いなことに、本科目では一人も途中で放棄せずに最後までやり切ってくれました。この結果は、学生ひとりひとりの頑張りがあればこそだと考えます。コロナ禍という異常事態においてこそ、「学生との対話に時間をかけて双方向的な授業を作りあげる」という基本に立ちかえる大切さを再確認しました。

人間文化学科 准教授 村上 亮

## 工学部 『オンライン授業への取り組み』

これまで、LMS (Learning Management System) を活用した対面授業は行っていましたので、この内容をオンライン用にすればよいと軽く捉えていました。しかし、学生の理解状況を推し量るという対面の授業では当たり前の対話がオンラインでは容易ではありません。それには、対面に近い環境(同期型)が提供できるオンライン会議ツールで対応できるかもしれませんが、多くの人がオンライン環境を利用するとデータの交通渋滞が起きることが予想され、学生の通信容量や環境を配慮する必要があります。

そこで、私は同期型の積極利用を避け、データダイエットに努めながら対面授業と同等の緊張感を持たせるため、正規の授業時間内で録画動画による項目説明、演習、動画による演習解説の順で時間を区切り実施しました。演習解説後には、直ちに『ノート』に筆記した『答案』を『自ら添削』した画像の送信を求めました。添削は別の色のペンを使い、オリジナルのノート、即ち「学びの証」が手元に残るようにしました。学生が「学びの証」を残すことに価値を見出せば、モチベーションが維持でき、質の高い学修ができると考えたからです。提出物に対しては直ぐにコメントし、次回の授業



回路理論IIのオンライン授業に用いたLMSの画面

にも反映させ対話に努めました。これが励みになったという感想をいただき、ホッとしました。

スマートシステム学科 教授 香川 直己

# オンライン授業への取り組み

## 工学部 Zoomを使った新入生への同時双方向型授業の取り組み —建築学科1年生の住宅計画—

令和2年5月、大学への立ち入りができないまま遠隔授業によって新学期が始まりました。入学したばかりの1年生に、何とか大学での学びを充実したものにしてもらいたいとオンライン配信（同時双方向型）での授業を行いました。

入学式の無かった1年生は、同級生の顔も様子もわかりま



Zoomによる学生の集合写真（写真は3年生の福祉住環境計画）

せん。授業を通して学生同士の接点がつくれないかと、レポート課題を手書きイラスト形式で出題して、相互閲覧設定してお互いを知る機会を試みました。また、自宅での遠隔授業は大学の講義室とは異なり、隣の席の学生がいません。自宅で一人パソコンに向かう孤独な学習環境なので、授業中にレスポンのアンケート機能を使って他の人の意見を見られるようにするなど隣席の可視化も行いました。さらに、6月後半からは一部対面授業が開始されましたが、遠隔授業は継続でした。

しかし、遠隔授業による成果もありました。大学での学びの基本である学修方法の習得ができたのは良かったと思います。遠隔授業では、事前に配布される資料を見てから受講、授業後は確認テストをするために授業資料を見直すといった「予習—講義—復習」という一連の学修単位の勉強方法を体験できました。遠隔授業には難点もありますが、効果が期待できる面もあります。

どのような状況でも学びを止めないための工夫と取り組みは重要だと痛感しました。

建築学科 准教授 佐々木 伸子

## 生命工学部 リモート授業、大学再開後の取り組み

今回のコロナ禍で、図らずもオンライン授業のスキルが身につきましたので、大学再開後にそのスキルを活用した事例を紹介します。ロックダウン時に困ったのは学生実験でした。

広岡教授は即座に自前で機材を準備して学科に提供され、自身は微生物の取扱方法などの動画ライブラリを作られました。対面の学生実験では先生の手元をじっくり見るのが難しく、実験操作ライブラリはいつでも何度でも見られるので大学再開後にも有用です。岩本教授の対面学生実験では、狭い測定室にある分析装置の説明にリアルタイムのビデオ配信を用いました。例年は狭い部屋にすし詰状態の説明ですので、ビデオ配信で3密を避けられました。こちらも録画してネットに上げているので、何度でも見られて便利です。佐藤准教授は、大学祭行事として『生物工学科 高校生のためのZoom特別企

画 哺乳類学最前線』という授業を企画されました（学長室ブログ参照）。宣伝期間が短く宣伝媒体も限られる中、果たして参加者がいるのか？と危ぶまれましたが、島根県と東京都と長野県の高校生が参加してくれました。授業は和やかな対話形式で行われ、先生も生徒もとても刺激を受けたそうです。こうして大学教員と高校生が直接繋がれたのもリモートの恩恵です。

以上、大学再開後の取り組みの紹介でした。

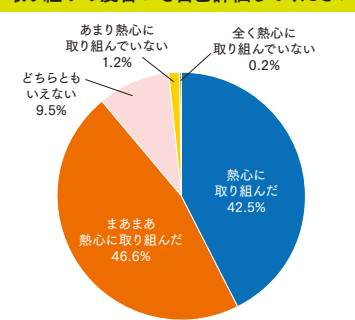
生物工学科 教授 岩本 博行



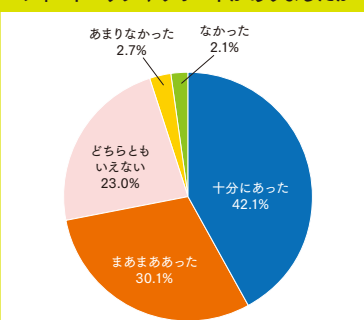
●本学学生を対象に、前期の授業に対する授業評価アンケートを実施しました。受講生17,511名に対し、回答者数は10,156名でした。（回答率58.0%）ご協力ありがとうございました。遠隔授業に対するアンケート結果を一部紹介します。

### 遠隔授業に対する学生の声

遠隔授業について、あなたの学修への取り組みの度合いを自己評価してください



遠隔授業において、教員からはどの程度のフィードバックやサポートがありましたか



#### ●ポジティブな意見

- ・「移動時間を省くことができ、対面授業よりも新型コロナウイルス感染症の心配がないので安心。」
- ・「対面では話しにくいのが、遠隔授業のおかげで緊張しなかったり他者の目を気にせず質問が出来たりして良かった。」
- ・「わからないところがあれば何度でもビデオを見ることができるので、復習がしやすい。」
- ・「学習が自分のペースでできるのが良い。」

#### ●ネガティブな意見

- ・「わからないことは直接聞きたいので、早く対面授業に戻ってほしい。」
- ・「遠隔授業は課題の詳細や期限などの面で戸惑うことがあった。」
- ・「遠隔授業の次の授業が対面実施だと、登校時間がぎりぎりになることがあった。」
- ・「音割れなど音質が悪く、聞き取れないところがあった。」

# 第46回 三蔵祭

## ～「一新紀元～未来に繋ぐ変わらぬ想い～」～

今年はコロナ禍での大学祭開催について悩み、検討をし、限られた時間の中でみんなで取り組みました。新型コロナウイルス感染症を配慮し、学内関係者だけで10月18日(日)、展示、演奏に限定して実施しました。本年度は各サークルが発表する機会もなく、先輩後輩の引継ぎも行えず落胆していましたが、大学祭という場で活動の成果が発表でき、学生間に様々な感動を生み出し、そして新しい絆が生まれました。私たち三蔵委員に感謝の言葉を述べてくれるなど、とても感慨深いものがあり、開催して良かったという思いに浸っています。また、動画撮影にも初めて挑戦し、無事に配信もできました。参加サークル、学科の皆さん、そして動画撮影を気持ちよく引き受けてくださいましたメディア・映像学科の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの協力の下、開催できた三蔵祭です。この動画で当日の三蔵祭全てを観ていただくことはできませんが、少しでも三蔵祭を感じていただければと思います。これからも、私たちは先輩から引き継いだものを後輩へ

繋いでいきます。私たちの「一新紀元～未来に繋ぐ変わらぬ想い～」を感じてください。

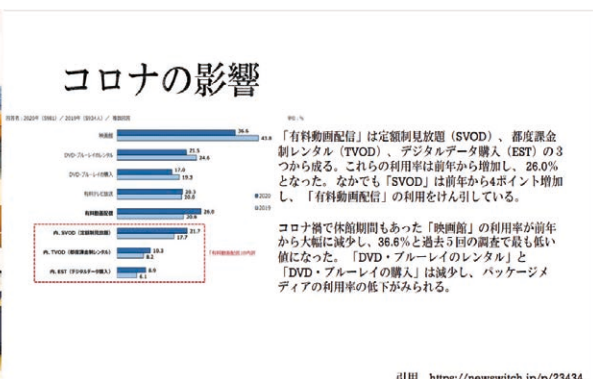
第46回三蔵祭運営委員会 委員長  
情報工学科 3年 植松 康作



## 経済学部 コロナ時代の三蔵祭：A learning opportunity

例年、国際経済学科の1年生は研究テーマを選び、ポスターを作成して三蔵祭に展示します。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症により前期授業がほぼ全てオンラインだったため、プレゼンテーションを作成するために必要なスキルを十分習得する機会がありませんでした。その上、お互いの名前すら知らず打ち解けることができていませんでした。

そこで、今年の三蔵祭は、生産者側ではなく消費者側として参加することにしました。学生は様々なプログラムに熱心に参加しました。また、三蔵祭にはポスター展示が間に合いませんでしたが、グループワークや調査能力が上達し、「コロナと経済」と題したプレゼンテーションを仕上げました。写真は、プレゼンテーションの一例と教養ゼミでのグループワークの様子です。学生同士のさらなる親睦のため、11月にはオリエンテーションも行いました。



国際経済学科 准教授 Bisset Ian James

## 生命工学部 初めての三蔵祭！有意義な協働体験

入学後に、先輩から「三蔵祭は食べ物や出し物の出店があり大学生らしいお祭りで楽しいよ。」と言われて、とても楽しみにしていました。そのうち、教養ゼミの先生から今年の三蔵祭は新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインで開催すると聞かされ、とても戸惑うとともに残念に思いました。生命栄養科学科は、Web上で栄養や健康に関する出し物を動画配信する形で参加することになりました。三蔵祭のオンライン開催に向けて班ごとに企画を考え、内容を検討してパワーポイントを作成する作業が始まりました。『どのように工夫したらオンラインでも楽しんでもらえるか』などと考えていくうちに楽しくなってきました。班員と協力し、チームの一員として自分の意見やアイデアを出すことができました。動画の完成時には、もっと動画を作りたいという気持ちになっていました。試写会では、私達の班の動画について他班から「クイズだけではなく栄養に関する豆知識も入っていて分かりやすかった。」という意見をもらい嬉しかったです。

今回、内容や表現の仕方が上手いかなった点もありましたが、そこから栄養に関する正しい知識を身につけることができました。来年の三蔵祭は対面で開催できることを願い、今年の改善点を活かしながら、さらに楽しい企画を実現し皆さんが楽しめる三蔵祭に貢献したいです。



生命栄養科学科 1年 佐々木 七海・勇谷 ひかり

## 薬学部 「Show must go on」

「Show must go on」は、ショービジネスの世界で使われる言葉です。何があっても舞台の幕を上げなければならない、幕を上げ続けることにこそ意味があるという言葉です。

昨年の12月、先輩方からの引き継ぎを受け三蔵祭で行ったアンケートをもとにこれまでの企画を見直し、薬学部の班全体



で「面白いことをしよう」と三蔵祭に向けて意欲的に取り組んできました。しかし、今年度の三蔵祭は新型コロナウイルス感染拡大をうけ、オンラインという形式で開催されることになりました。

オンラインでの開催ということで、撮影から編集まですべてを自分たち自身で考え、試行錯誤しながら準備を進めていきました。人に何かを伝えることの難しさを痛感した三蔵祭でした。自分たちが思い描く理想の画と実際に画面に映る映像のズレを修正していく作業の繰り返して、声の大きさから掲示物の見やすさまで細部にこだわる必要がありました。各自が、どうすればよりわかりやすく“人に伝えること”ができるかを模索してきました。全てが初めての経験だったため、うまくいかないことも多くあった中で、何とかひとつの動画を作り上げることができました。例年とは違うかたちでしたが、今年度も三蔵祭の活動に参加することができたことに大きな意味があったのではないかと思います。

様々な制限がある中でも何とか自分たちのできる限りのことを表現していく、まさに「Show must go on」を体現することができたのではないのでしょうか。

薬学科 3年 要田 恒希

## 社会連携センター 社会連携センターの活動を紹介しました!

福山大学社会連携センターは地域連携部、産学連携部、知財部、高大連携部で組織されており、それぞれの事業を推進して社会貢献活動を行うことを目的としています。

昨年度まで、社会連携センターの紹介は事務室を構える7号館のピロティで綿菓子の無料提供や子供向けアンパンマンの風船を配ることなどを行って行っていました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の防止対策として三蔵祭の催し物を大学会館に集約して、展示規模を大幅に縮小する措置が講じられましたので、大学会館のロビーで行いました。

紹介コーナーでは、活動目的や組織及び各ポリシーについて説明するとともに、社会連携センターが作成した助教以上の教員を網羅した研究者情報一覧と今年度はコロナ禍の影響で中止になりましたが、開催予定だった研究成果発表会に合わせて作成した研究成果発表集を展示して来場者にその活用方法を説明しました。

また、紹介コーナーには来場者呼び込み用のハロウィンの顔出しパネルが置いてあり、卒業アルバムの制作などでお世話になっている三橋写真スタジオが顔出しパネルを撮影されました。

来年度、新型コロナウイルス感染症が下火になりましたら、

社会連携センターの紹介は7号館のピロティで行う予定です。皆様のご来場をお待ちしています。

社会連携センター 助教 中村 雅樹



## 第46回三蔵祭での活動



### 第46回三蔵祭で活動したサークル

シルクハットmagic&juggle,  
Light Music Club, 吹奏楽部,  
管弦楽団, 箏曲部,  
ダンス部(ストリートダンス・チャダンス),  
サブカルチャークラブ,  
漫画研究会, 写真部, 華道部



例年、三蔵祭の時にやっている餅つきですが、今年はコロナ禍でできませんでした。しかし、学生の皆さんには10月15日(木)・16日(金)・19日(月)・20日(火)に大学会館、学生ホール、1号館ピロティで紅白餅を配布しました。配布前から待っていた学生、珍しそうにお餅を見ていた学生、駆け寄って来た学生、来年はみんなで餅つきしたいですね。

学務部 学生課

## 「未来創造人」の育成拠点である『未来創造館』竣工間近!!

『未来創造館』は12月21日(月)に竣工を迎えます。

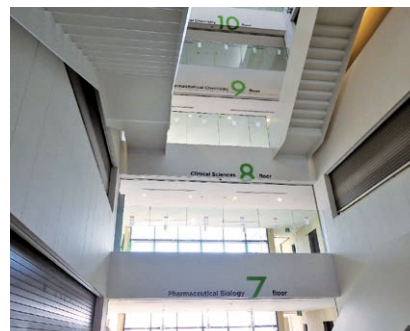
1階には新しいラーニングコモンズに対応したスペースとして、ICT教育推進拠点となるコミュニケーションエリア、大型ディスプレイを利用した映像の展示やゼミなどで利用可能なディスプレイコーナー、ブース席によるグループワーク活動の場としてのインフォダイナー等、学生の多様な学びに対応するICT設備を整備したフロアが

設置されます。2階には168名(可動椅子)、3階には165名(固定椅子)収容可能な講義室を設置し、4～10階には各研究室間の間仕切りを除いた今までにない実験室(オープンラボ)が作られます。さらに、11階には素晴らしい瀬戸内海の景色が見渡せるクロッシングカフェ、備後地域発祥の「中継ぎ」と呼ばれる伝統技法で織った畳を敷いた茶室等があります。また、『未来創造館』の隣に新設する研究動物棟

は、「環境省実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」に準じて建設した最新施設です。

基本計画から約2年と8か月の長期に渡る未来創造館プロジェクトも、無事故無災害でいよいよエンディングを迎えようとしています。竣工後は、引っ越しに続き現在の10・11・12号館等の取り壊し工事を予定しています。

経理部 施設課



## 硬式野球部の山崎友輔投手が読売ジャイアンツからドラフト指名を受けました!

硬式野球部の山崎友輔投手が、読売ジャイアンツからドラフト指名を受けました。晴れて念願のプロ入りを果たした山崎さんに、インタビューしました。

- 【氏名】山崎 友輔(やまさき ゆうすけ)
- 【身長/体重】178cm/80kg
- 【投/打】右/右
- 【趣味】Youtube(野球系)、ゲーム(荒野行動・パワプロ・プロスピ・ウイイレ)
- 【好きな食べ物・飲み物】

食べ物は何でも好き。飲み物は昔は炭酸が好きでしたが、最近はお茶やお水を飲みます。お酒は弱いです。

### 【球団から指名されたときはどんな気持ちでしたか?】

とにかくほっとしました。「ああ、良かった…」という感じで、安堵感が強かったです。

### 【大学生生活で思い出深いことは何ですか?】

教育実習と卒業論文です。リーグ戦と実習が重なり、実習・授業の教材準備・日誌・リーグ戦と大忙しだったので印象深いですね。今は卒業論文に注力していて、テーマは野球に関することです。実は、ドラフト後にやっと具体的なテーマが決まりました。かなり苦労しますが、自分の野球に活かせるよう頑張ります。

### 【今後の意気込みを教えてください!】

球界を代表する投手になりたいです。強気で攻める姿をマウンドで表現していきたいです。そのために、小さなことにもひたむきにコツコツ取り組み、与えられたポジションで全力を尽くします。壁にぶち当たった時はいろいろな可能性を柔軟に試しつつ、確実に目標を達成していきたいです。引退後は高校や大学で指導者がしたいと考えています。野球だけは人生から離れたくないですね。



山崎さんに関する情報はホームページからも確認できますので、是非ご覧ください。山崎さん、おめでとうございます。福山大学一同、心より応援しています。

総務部 企画・文書課



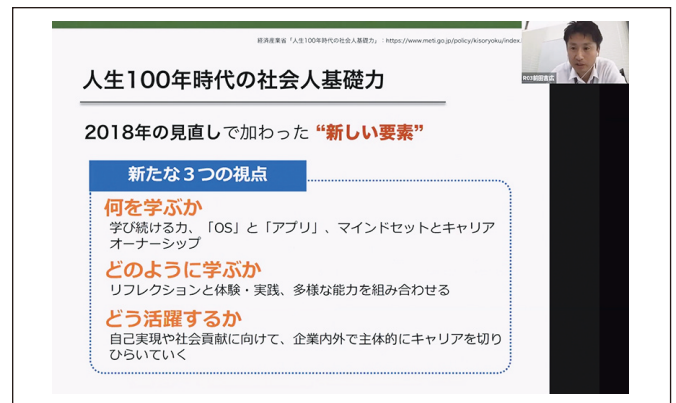
## 「BINGO OPEN インターンシップ 2020」

令和2年度はコロナ禍の影響により、過去10年間にわたって継続してきたBINGO OPEN インターンシップの内容を大幅に見直すことが求められた年となりました。新型コロナウイルス感染症に伴う非常事態宣言に基づく社会や大学の対応の中で全国的にインターンシップの開催を見送った大学も多い中、本学は今年度の開催が不可能となったとしても、Withコロナ、Afterコロナでのインターンシップ事業継続は必要であると判断して、学生の安全・安心を第一に考えた感染拡大防止策の徹底とオンラインインターンシップへの移行支援、三密を避けた運営方法をゼロから再構築するなど、教職員一丸となって準備を継続しました。非常事態宣言が解除され、実施が可能となり受入企業数は36社・参加学生数は82名でした。昨年度と比較して規模は縮小しましたが、浮足立ちそうな状況においても顧客に変わらぬ価値を届けようとする地元企業の熱意や企業努力、社員を感染リスクから守るための様々な支援や対応など、例年以上に多くの学びが得られたとの報告が集まっています。

例年6月、備後地域4大学の学生が本学の学生会館に一同に集う「インターンシップ合同企業説明会」は、尾道市立大学と福山市立大学のインターンシップ関連講義の不開講決定を受けて、福山大学と福山平成大学の2大学での開催になりました。また、この時期での対面型の説明会は安全が確保できないと判断し、数年前より全学導入しているLMS (Learning Management System) 「Cerezo (セレッソ)」をプラットフォームとし、動画等を活用したオンライン開催に切り替え、手続きもオフィス365の機能を用いたオンラインで対応しました。例年と異なる実施方法に企業や学生から戸惑いの声もありましたが、自分未来創造室スタッフの丁寧な対応により、混乱することもなく無事に完了できました。

また、「Zoom」を用いた初めてのオンライン大規模研修ということもあり課題も見つかりましたが、受講者アンケートの結果は概ね良い評価だったこともあり、スタッフ一同胸を撫でおろした次第です。

メインイベントであるインターンシップは8月末から始まり、感染拡大防止策を講じた「対面型」と、従来のプログラムを大幅に変更した「同期オンライン型」の2種類の形態がありました。状況に応じて対面プログラムからオンラインへの変更、対面においても実施内容の変更など、本業で多忙の中での受入企業の迅速かつ柔軟な対応により全員無事にインターンシップを終えることができました。



Zoomを使用した事前研修の様子（画面）

通常の授業を通じて、学生の将来に対する考えや想いを伺い知る機会があります。その中で、急激に変化する社会に対して不安を感じている学生も少なくありません。今年は新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、さらに不安を煽るニュースを目にすることになりました。それでも「自分に合った仕事を見つけたい。」「働く目的を明確にしたい。」「仕事の現場を肌で感じたい。』といった想いをもち、自分のキャリアを真剣に考え一歩を踏み出した参加者にとって、今年のインターンシップから真の学びが得られたのではないのでしょうか。

私たち教職員も図らずも堰を切られたSociety5.0時代のインターンシップのあり方を思索し、時代の変化に対応した運営体制を構築していきたいと考えています。来年度より本事業を運営する自分未来創造室は、最新の教育環境を整えた「未来創造館」に移転します。学生の方々はもちろん、教職員や地域の皆様も是非気軽にお立ち寄りください。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

大学教育センター 講師 前田 吉広



合同企業説明会のオンライン開催ページ

当インターンシップがスタートした当初から最も力を入れている取り組みの一つであるインターンシップの「事前」及び「事後」研修も、オンライン開催にしました。単なる知識の提供ではなく、インターンシップに参加する者同士でのラーニング・コミュニティを形成することも目的の一つである研修をオンライン化することには賛否両論ありましたが、「Withコロナ、Afterコロナ」時代への対応が求められることを見据え、新しい研修のあり方に挑戦する決断をしました。



旅館業の対面型インターンシップの様子

# 「食と健康のひろば ローズスクエア 市民フォーラム2020」 ～食と健康のライフサイエンス～

主催：福山大学生命工学部生命栄養科学科

共催：福山バイオビジネス交流会

後援：福山市・福山市教育委員会・(社)全国栄養士養成施設協会・(公社)広島県栄養士会

今年度の生命工学部の市民フォーラム～食と健康のライフサイエンス～は2回の開催を予定していましたが、1回目の市民フォーラムはコロナ禍のため残念ながら中止し、今回の11月7日(土)の1回のみとなりました。そのため、例年行ってきましたその年のフォーラムすべてに参加した方にお渡ししていた修了証書の発行や授与式は取り止めにしました。全国的な新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、学校法人福山大学社会連携推進センター9階での通常の対面形式の開催でしたので、参加者が少ないのではとの懸念もありましたが、学外から44名の参加者があり、学内からの参加者を合わせると78名となりました。入口では検温を行い、開会前の諸注意として司会者から参加者の三密を避けるために座席を空け、帰りのエレベーターも集中しないように、また全員にマスク着用をお願いがありました。

山本覚生命工学部長のウィットに富んだ開会の挨拶に始まり、今回のテーマは「糖質と健康」ということで生命栄養科学科の井ノ内直良教授の「糖質はえーよう」と題した1つ目の講演は、近年の糖質オフや糖質制限ダイエットといった糖質に対する悪いイメージではなく、糖質の栄養についての理解を深めて正しい食生活を送りましょうというメッセージを込めた内容でした。また、糖質に関連する用語として、炭水化物、糖類、食物繊維、難消化性澱粉(レジスタントスターチ)などがあり、それらの意味の違いなどの説明がありました。さらに、脳のエネルギー源は基本的にブドウ糖のみで、特に幼児の脳の働きに対して糖質は重要な栄養素であり、講

演後はその点に対して参加者からの質問などもありました。

2つ目の講演は、西日本農業研究センターの上級研究員で生命工学部客員教授の池田達哉先生による「大麦の機能性はすごい!」というタイトルでした。まず、大麦と小麦の違いの説明に始まり、大麦は二条と六条、ウルチ性とモチ性、皮性と裸性の分類があること、広島県で栽培されているウルチ性の「さやかぜ」、モチ性の「キラリモチ」、「ダイシモチ」の紹介、また大麦に多量に含まれている水溶性食物繊維のβ-グルカンの摂取が健康増進に繋がること、大麦を使った調理法や災害食としての有効性など、盛り沢山の内容でした。(参加者の)多くの方々が熱心にメモを取っておられ、大麦に対する参加者の関心の高さを感じることができました。中には帰り道で「早速大麦を買って帰ろう。」と言われていた方もおられ、講演に対する反響が大きかったように思いました。

講演終了後、石井香代子学科長による参加のお礼と来年度も同様に実施することの紹介も含めた挨拶後、予約者に対する本学科教員による栄養相談室も実施し、無事に予定の内容を終了することができました。今回、通常の対面形式による開催ができたことは大変良かったと思います。来年度も引き続き、市民フォーラムを実施して、学部・学科の良さをアピールしていきたいと思えます。

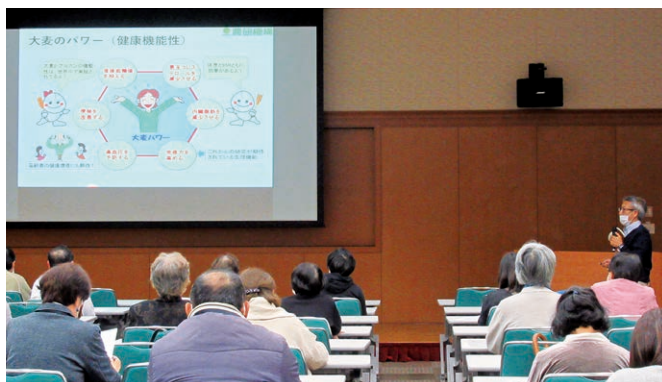
生命栄養科学科 教授 井ノ内 直良



山本 覚学部長による開会の挨拶



講演風景



講演の様子



栄養相談室

# 本学留学生へのご支援を賜りました

本学で学んでいる126名の留学生に対して、外国人留学生を支援する会からマスクと食料品、福山市からお米のご支援を賜りました。

外国人留学生を支援する会は、福山市及び近隣に在住する外国人留学生との交流を通して地域の方々と国際理解を増進させるとともに、勉学や生活を支援するための活動を行ってまいります。

今年度は、特に新型コロナウイルス感染症の影響によって帰国できなかつたり、アルバイト収入が減少したりしている留学生に対する支援活動も積極的に行っております。同会によるフードドライブ（未使用食品の寄贈）の活動を耳にされたことのある方も多くはないでしょうか。

9月10日（木）に同会の徳永明彦会長が本学にお越しください、同会からの支援物資を届けてくださいました。ご恵贈いただいたのは、マスクに加えフードドライブで集まった食料品などです。

それに続き、9月14日（月）に福山市市民生活課から本学留学生全員宛に広島県産「恋の予感」126袋をいただきました。同課の方にお聞きすると「現在、福山市には約1,500名の外国人留学生等が在住しており、その多くがアルバイト収入により生計を立てています。昨今は新型コロナウイルス感染症の拡大により、アルバイト収入が減少するなど生計の維持に大きな影響が生じているという声が福山市にも届きました。そのため、福山市が食料品（お米）を支給することで外国人留学生等の生活を支援することとなりました。」と教えていただきました。

本学留学生に続々とご支援を賜り、本当にありがとうございました。ご恵贈いただいたお米は、マスクや食料品と一緒に国際交流課の窓口で順次留学生に渡しました。

本学の留学生・教職員はもちろんのこと、母国の家庭や出身大学などからも感謝の声が上がりました。その中から国際センター長を務める早川達二教授と留学生会長の管宇鵬さん（国際経済学科3年生）からのお礼を紹介させていただきます。



## ●国際センター長：早川達二教授

この度は、本当にご親切にも本学の留学生に対して支援物資を届けていただき、心より厚く御礼申し上げます。本学においても多くの留学生が大きな経済的影響を受けており、日々苦勞しています。そのような中で、大変貴重で有難いご支援をいただきました。今回のご厚意を受け、本学の留学生もさらに日本における勉学に力が入り、将来に向けての努力を続けることと思っております。福山大学国際センターを代表して、心より感謝を申し上げます。



## ●留学生会長：管宇鵬さん

この度は、ご支援をいただき、心より厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大以来、日本で勉学している留学生たちも大きな打撃を受け、生活面にも学業面にも多大な困難に直面しておりました。飲食店の休業に伴い、アルバイトを失った学生も多くいました。そのような時、市及び支援団体から食料などをいただき、大変助かりました。

ご存知の通り、出入国制限のため、春休みや夏休みまでも帰国を断念せざるを得ない留学生が多くいました。特に、4月に市内から感染者が出て以来、私たちだけではなく、本国にいる両親も大変心配していましたが、この度の温かいご支援のお陰で、気持ちがだいぶ楽になりました。このことについて両親に話したところ、非常に喜んでおりました。

この度のご支援は異郷にいる私たちにとって、物質的な支援だけではなく、心の強い支えにもなりました。コロナ禍で不安に陥った私たちを勇気づけてくれました。福山市と外国人留学生を支援する会の温かいお気持ちに深く感謝しております。自分は日本語があまり上手ではなく、うまく表現できませんが、福山大学留学生一同を代表し、心より感謝申し上げます。

これからもそのお気持ちを大切に胸に抱きしめながら、コロナに負けないように、しっかり勉強していきたいと思っております。今後ともご指導・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

学務部 国際交流課



## 海外留学奨学金の授与式を行いました！

令和元年度後半の海外留学は、途中で発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画を大きく変更しながらプログラムを修了することになりました。そのうち、海外留学奨学金の対象となっていた学生には、コロナ禍が少し落ち着きを見せ、対面授業再開後の7月9日(木)に奨学金を授与しました。

中国の江西師範大学及び対外経済貿易大学への派遣交換留



学生とアメリカのカリフォルニア州立大学サンマルコス校での英語研修に参加した学生は、松田文子学長・富士彰夫副学長・国際センター教員・国際交流課職員に参加報告を行った後、松田文子学長から奨学金が授与されました。

参加学生は予定よりも早く帰国することになったり、プログラム内容が変更されたりと大変な苦勞をしながら留学を経験しましたが、皆が口を揃えて「留学を通じ、語学面のみならず人間面でも成長でき、今後の新たな目標が見つかりました。」とキラキラした目で語っていました。

その後、松田学長から「今回の留学では、普段は体験しないようなことが多くあったと思いますが、無事に帰国できて本当に良かったです。皆さんの話を聞くと、語学だけでなく多くのことを吸収したことが分かります。この経験を糧にして、今後活かしてください。そして、後輩学生に海外経験の魅力を伝えてください。」といった労いと激励の言葉がありました。

学務部 国際交流課

## 母校へマスクの贈り物

新型コロナウイルス感染症のため福山大学も全て遠隔授業になっていた中、母校にマスクを贈らせていただいたことを評価いただき、オンラインにて学長室訪問を実施していただきました。今回は、その経緯や想いについてお話しします。

きっかけは母校である栃木県立馬頭高等学校の先生の言葉で、たまたま連絡をとっていた際に「マスクが不足している」と聞きました。高校時代にお世話になった先生方や高校時代の貴重な時間に不安を抱きながら過ごしている在校生の役に立ちたいと思い、母校の全生徒と教員に300枚のマスクを贈ることを計画しました。元々は母が勤務する病院で使うためのマスク作りを手伝っていたので作り方は把握していましたが、想像以上の枚数でした。しかし、誰かの役に立つことができる嬉しさの方が上回っていたのでとても楽しく作成することができ、5月に母校に贈らせていただきました。なお、このことは地元の下野新聞にも掲載されました。

これは、「トビタテ！留学JAPAN」でアメリカに留学した際、

見知らぬ土地から来た私を優しく受け入れてくれた経験が、誰かのために何かをしたいという行動の原動力になりました。強く感じています。今後は、就職活動や学校生活など、どうなるかわからない不安はありますが、その時何ができるかを最優先に考えることが大切だと思いました。



海洋生物科学科 3年 中荒井 李華

## 逆境を学びのチャンスに！—地元企業との連携による新たな挑戦—

今年度のエブリイホームイホールディングスとの前期連携授業『地域調査』は、コロナ禍のなかで3年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、連携授業の実施も危ぶまれていましたが、エブリイ社は「逆境を学びの



チャンスに変えようではないか！」と全社を挙げてオンライン授業形式でも学べる企画を練り上げていただきました。

「地元企業の魅力を知り、伝える」をテーマに、エブリイ社オリジナル商品の「おいしい物語」ブランドの新商品開発提案、エブリイの経営手法研究など5つの課題に対して、5つのチーム（①「おいしい物語チーム」、②「エブリイの歴史チーム」、③「業務商品チーム」、④「超鮮Doチーム」、⑤「漁船のまるごと一艘買いチーム」）に分かれてディスカッションを行いました。ディスカッションに向けての学習やプレゼン資料作成にあたって、各チーム1名のエブリイ若手社員が配置され、懇切かつ丁寧な指導をしていただきました。

さらに、授業時間外でも担当社員はプレゼンに必要な情報を随時提供するなどして努力を惜しむことはありませんでした。その結果、オンライン授業形式に伴う学生の戸惑いや不安は完全に払拭されることとなりました。

税務会計学科 教授 張 楓

## 『尾道オンライン・バーチャルツアー』で国際交流

私の所属する国際経済学科の足立ゼミでは、経済学部協定校であるインドネシア・バリ島のマハサラスワティ大学日本語学科の学生に7月9日(木)は日本語で、英語学科の学生に9月3日(木)は英語で、それぞれオンラインで尾道を観光案内しました。

第1回は、ゼミメンバー全員でスマートフォンを持ってライブ配信しました。日本語学科の学生に尾道の観光案内だけでなく、尾道に関するクイズを出題したりして、お互いが楽しく学べるように工夫しました。私自身も実際に尾道に行くことで、文化・歴史や街並みをより深く知ることができました。第2回は、第1回の通信状況があまり良くなかったため、事前に収録した動画を利用してZoomで尾道の観光スポットをオンラインで紹介しました。英語で伝えることの難しさや英語学科の学生の積極的な発言など、多くの課題と同様にバリ島の学生からたくさん学ぶことができました。

今後の予定は、英語学科の学生とグループディスカッションを行います。また、バリ島の学生との絆を深めて英語力を身につけ、バリ島の文化等を学びたいと思っています。

今は、新型コロナウイルス感染症の影響で実際にバリ島の学生に会うことができませんが、この状況をプラスにとらえて



Zoomなどを活用し、この時期だからこそできる国際交流にたくさん参加していきたいです。

国際経済学科 3年 片岡 優奈

## ACジャパン広告学生賞に12年連続入賞!



メディア・映像学科の2・3年生が合同で履修する授業「メディア実践」で、私たちのグループが制作した作品が第16回ACジャパン広告学生賞で奨励賞を受賞しました。この賞は、若い世代が広告制作を通して公共広告への理解を深め、「公」への意識を育むことを目的に2005年に設立されたもの

で、本学科は2008年度から12年連続で入賞しています。今回受賞したのは、学生6名のグループで制作した作品で、環境保全をテーマとした『へらそうプラスチックごみ』です。

この作品では、プラスチックごみの削減を呼びかけています。廃棄されたプラスチックごみは自然の中で細かく粉砕され、それを魚が摂取し、それをさらに人間が摂取し、人体に悪影響を及ぼすというプロセスをコマ撮りのストップモーションアニメという技法で表現しました。もともとこの技法には興味があったのですが、実際に作るのは初めてでした。多くの部品を作り準備し、完成した動きを考えながら1コマずつ撮影していくことや撮影時にできてしまう不要な影を消すことなどには想像以上に苦労しました。来年度は、また違う技法による作品でこの賞にチャレンジしようと考えています。社会的なテーマをわかりやすく伝えることは簡単ではありませんが、この経験はこれからの色々な場面で役に立つ力になると考えて取り組んでいます。

メディア・映像学科 3年 船越 萌実

## 大学生による高校生を対象としたデートDV予防授業

9月2日(水)、心理学科発達心理学研究室の3年生3名が、福山市立福山中・高等学校の6年生198名の生徒を対象にデートDV予防授業を実施しました。以下は、授業を担当した学生の感想です。

私は「デートDV」の暴力の内容について説明しました。当日は、「授業をうまく進めることができるか」「高校生の反応はどんな感じなのか」と不安でドキドキしていましたが、楽しく授業を受けてくれ、授業が終わってから授業への感想文を読み、この授業を行って良かったと感じました。とても良い経験になり、自信ができました。(池本)

私は「暴力を防止するには—他者の視点に気づく」という内容で授業を実施しました。高校生の皆さんには、より良い対人関係を築いていくヒントを何か一つでも学んでもらえたらという思いでこの授業を行いました。授業後の感想文を読み、楽しく学べたという言葉や今後の関わり方のヒントを学べたと

いう言葉をいただいていた、とても嬉しかったです。(古和)

私は「暴力を防止するには—アサーティブな自己表現」についての授業を行ったのですが、生徒一人一人が楽しそうに授業を受けてくれて、こちらも授業をしていて本当に楽しかったです。私は教員を目指しており、来年度は教育実習に行くので、ますます教壇に立つのが楽しみになりました。(草野)



クイズ形式で生徒に質問する池本さん

心理学科 3年 池本 美穂・古和 里奈・草野 裕兵

## 情報工学科の4年生が国際会議AAI2020にてオンライン発表!

コロナ禍でも様々な形で研究発表が行われています。令和2年9月にオンライン開催された国際会議9th International Congress on Advanced Applied Informatics (AAI2020)にて、オンライン発表を行いました。本来は北九州市で開催予定



だったので、オンライン開催に変更になったため、プレゼンテーションを8月に録画して準備しました。開催前には発表の証明書や様々なグッズが送られ、せっかく

なので共著でご協力いただいた工学研究科2年生の武田先輩(写真左)と記念撮影しました。

今回、ディスプレイを利用したアクティブラーニング環境では、提案するポインティングシステムを用いることによって、より早く指摘可能であることを発表させていただきました。また、9月の開催期間中はいつもの工学部棟2階の情報工学科研究エリアから国際会議に参加し、自分のプレゼンテーションを確認しました。さらに、発表登録されている山之上先生とともに、国際会議についての情報をいただきながら様々な研究に触れることができました。

オンライン開催ということで今回は使用しませんでした。大学から発表の旅費助成をいただいております。ありがとうございました。

情報工学科 4年生 正畑 智徳

## 「びんご建築女子2020」が活動開始!

新型コロナウイルス感染症が拡大した今、様々なイベントが中止され、世の中は外出自粛を余儀なくされてしまいました。私たちが例外でなく、学園祭やオープンキャンパスが縮小され、思い通りに活動することができませんでした。新型コロナウイルスと共存する生活の中、今までとは違った新たな体制でイベントの開催が求められるようになりました。

そこで、私たちはみんなで話し合い「今、できることをやろう!」とZoomを活用してキャリア講演会を行ったり、びんご建築女子を知ってもらえるよう動画を制作してインターネットに公開したりしました。また、毎年行っている子ども模型教室もZoomを使うことによって、小学生と運営スタッフとで一緒に作業をすることができるよう企画しました。対面でなくても気軽に参加できるよう企画しました。その他にも、建築ツアーや建築就活生に対して有力な情報を共有する就活塾など、諦めずに企画中のものもあります。

新型コロナウイルス感染症の影響により、企画をするにはたくさんの制限を乗り越えていかなければなりません。今回すべての経験がこれから社会に出ていく私たちの糧となることを信じて、

何事も諦めずに最後までチャレンジしていきたいと思えます。

今後とも「びんご建築女子」を何卒よろしく願いいたします。

建築学科 2年 谷本 小雪



## ひろしまのレモンでレシピ開発!~生産者と交流~

私たち栄養教育研究室ゼミでは、広島県農林水産局からの委託で「ひろしま地域食材PR促進事業」に取り組んでいます。この事業は、レシピを開発して広島県産の農産物をPRするもので「瀬戸田レモン」を選びました。

瀬戸内海の生口島にある尾道市瀬戸田町はレモン生産日本一です。栽培の様子や生産者の思いを知りたいと、8月17日(月)にレモン圃場を訪問させていただきました。



明るい斜面のレモン圃場で、生産者の方から直接お話を伺い

ました。温暖な瀬戸内海ですが、寒波で枯れてしまったこともあるそうです。ハート型レモンも虫害に苦心して栽培されています。特に印象に残ったのは、農薬を使用しない「エコレモン」栽培です。皮ごと安心して食べることができ、廃棄量も減少させることができるため、全国から注目されています。私たちは、栄養価も高いこの「エコレモン」を利用したレシピ開発することに決めました。

その後、JA三原せとだ柑橘販売課の選果場での作業や保管施設を見学させていただきました。多くの人の手加わり、私たちの手元に届くことを学ぶことができました。

手間と時間、愛情のこもった瀬戸田エコレモンを使用して、魅力的なレシピ開発を行いたいと考えています。そして、広島県内外の方々にひろしまのレモンの良さを伝えることができるように、微力ながら頑張っていきたいと思えます。

生命栄養科学科 4年 奥迫 裕佳梨・栗原 有利子

## 東村葡萄園でマスカット・ベリーAを初めて収穫！

生物工学科では昨年、大学から目と鼻の先の水田跡地に東村葡萄園を開所し、マスカット・ベリーAを植え付けしました（学報162号を参照）。今年は開所してまだ2年目ですが、順調に生育したことから初めて全面に雨よけのビニール屋根を張り、少量ですが収穫も行いました。

ブドウは病気にとても弱く、黒とう病や灰色カビ病など様々な病気に罹ります。これらを防ぐためには農薬も使いますが、雨の多い地域ではビニール屋根で雨よけにすることが多いです。この作業は生物工学科の2年生の果樹栽培加工実習で行う予定でしたが、前期は新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業だったため教員だけで張りました。東村葡萄園はおよそ50m×4列ですから、それなりの重労働です。

ブドウ樹はまだ成長段階にあり、大きなブドウの実を育てる体力がありません。通常はすべて切り落とすのですが、今回は少しだけ実を育ててみました。写真のとおり、小ぶりで良い感じのブドウに育ちました。糖度はこの品種としては十分な19度ほどあり、生食用としてもなかなか美味しかったです。来年は100kg以上の収穫を見込んでおり、初めてワイン



も造る予定です。どんなワインになるのか、とても楽しみです。

また、後期は来年の収穫に向けた剪定作業などがあり、生物工学科の2年生と行う予定です。

生物工学科 准教授 吉崎 隆之

## 動脈硬化治療に関する研究成果が中国新聞や山陽新聞等で紹介！

薬学部の病態生理・ゲノム機能学研究室の学生が3年次からの課題研究として取り組んできた「動脈硬化治療に関する研究」の成果について、今年の科学誌BMC Mol. Cell Biol.及び科学誌Int. J. Mol. Sci.へ掲載されました。その成果が注目され、中国新聞・山陽新聞・Yahoo!ニュースに取り上げられました。

動脈硬化は、本邦の死因第2位と第4位である心疾患と脳



血管疾患の原因として挙げられ、その進展は血管内壁下へのコレステロールの蓄積により生じることが分かっています。

当研究室では、動脈硬化の原因となる蓄積コレステロールを除去する機構を明らかにし、それを薬物治療に応用するための研究を行ってきました。その結果、動脈硬化の抑制分子であるROR $\alpha$ 核内受容体が、蓄積コレステロールの除去に働く中性コレステロールエステル水解酵素を調節していることを明らかにしました。そこで、ROR $\alpha$ 核内受容体を活性化させたところ、蓄積コレステロールにより生じる脂肪滴を縮小させたことに成功しました。

今後、さらに研究を進展させ、ROR $\alpha$ を標的とした作動薬を創薬シーズとして、動脈硬化を効率的に退縮させる治療薬への応用が期待されます。また、本研究の詳細は【学長室ブログ：<https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/37289/>】にも掲載されています。

次なる研究へ向けて、学生・教員の団結力を強めるために、福山大学内海生物資源研究所での合宿セミナーやZoom遠隔セミナー等を企画し、親睦を図りながら活動しています。

薬学科 講師 松岡 浩史

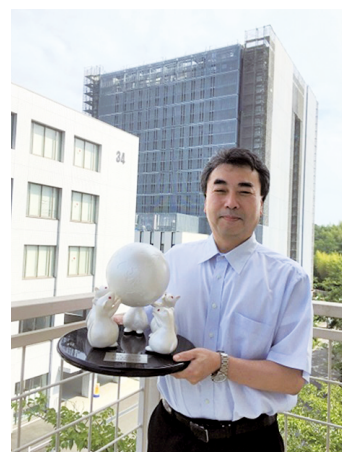
## 疾患モデル研究が評価されてラットオブジェの贈呈！

「第1回未病栄養シンポジウム」が企画され、「疾患モデル活用研究業績の顕彰」の一環として「ラットオブジェの贈呈」が行われる予定でした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により延期が決定し、主催者側から郵送にてラットオブジェが届けられました。

簡単に研究内容を述べます。血清並びに脳血管内皮細胞中のコレステロール低下は、血液脳関門の崩壊を引き起こし、脳内出血を生じることが考えられます。また、血清コレステロール低下は、脳内出血だけでなく総死亡率・うつ病自殺・骨粗鬆症に関与していることも報告されています。重篤な高血圧を有し、100%脳卒中を自然発症する脳卒中易発症ラット（SHRSP）の病理学的所見はヒトと酷似していることから、ヒト脳卒中の研究に広く用いられてきました。SHRSPの血清コレステロールは、対照ラット（WKY）に比べ有意に低下していることが報告されています。我々の研究室では、WKYとSHRSPを比較することにより、SHRSPの低コレステロール血症発症機構、脳梗塞と出血の両方に影響を与える脳内

酸化ストレス増加機構について明らかにしてきました。近年では、メタボリックシンドロームや非アルコール性脂肪性肝炎モデルラットを使った共同研究も進めています。今後も、疾患モデルを活用した疾病予防に役立つ基礎データを地道に構築していきたいと考えています。

薬学科 教授 道原 明宏



## 入試広報室から

### ◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を毎年6月上旬に中国・四国・九州・沖縄の11会場で実施していましたが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、開催を中止しました。全国1,150校の高等学校に本年度の入試説明会を中止する旨の案内を送付するとともに、福山大学・福山平成大学の各種入試関係資料の必要な高等学校には連絡をいただき、連絡のあった205校の高等学校に資料を送付あるいは持参し届けました。

### ◆進学相談会(業者主催)

本年度の業者主催の進学相談会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各業者より進学相談会の中止あるいは延期の連絡が相次ぎ、例年通りの開催が難しい状況になりましたが、8月下旬あたりから各地区で開催されるようになり、中国・四国・九州・沖縄の18都市27会場で高校生・保護者・教員の進学相談に応じました。

### ◆高等学校 生徒・教員の本学訪問

高等学校の上級学校訪問を受け入れております。こちらも新型コロナウイルス感染症の影響で例年より訪問高校数は減少し、福山大学への来校は2校55名です。(11月末現在)

### 令和3年度 一般選抜前期A日程・大学入学共通テスト利用選抜(前期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和3年1月5日(火)～1月25日(月) 消印有効	
試験日	令和3年1月31日(日)～2月3日(水) ※試験日自由選択制 (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	(一般選抜前期A日程) 令和3年2月10日(水) (大学入学共通テスト利用選抜(前期)) 令和3年2月13日(土)	
試験地	【1/31～2/3】 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・山口・福岡・岡山 【1/31】 鳥取・浜田・宮崎 【2/1】 米子・大分 【2/2】 静岡・京都・熊本 【2/3】 名古屋・神戸・佐賀 【1/31・2/1】 東京・大阪・松山・高知・鹿児島 【2/2・2/3】 松江・高松・今治・小倉	

### 令和3年度 一般選抜前期B日程

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和3年2月4日(木)～2月15日(月) 消印有効	
試験日	令和3年2月19日(金)	
合格発表日	令和3年2月25日(木)	
試験地	本学・福山(社会連携推進センター)・広島・岡山	

### 令和3年度 一般選抜後期・大学入学共通テスト利用選抜(後期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和3年2月24日(水)～3月2日(火) 消印有効 ※大学入学共通テスト利用選抜は必着	
試験日	令和3年3月6日(土) (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	令和3年3月10日(水)	
試験地	本学・福山(社会連携推進センター)・広島・福岡・岡山・大阪	

#### ◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

#### ◇入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置について◇

福山大学では、地震・豪雨等により災害救助法が適用された地域において被災された方に対して、申請に基づき、本学入学試験受験生に対する入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置を行っております。詳細については、入試広報室までお問い合わせいただくか、ホームページをご確認ください。

### 編集後記

学報第166号では、コロナ禍での大学、教職員の取り組みについて伝える記事を多く盛り込むこととなりました。しかし、このような状況下でも、学生は様々にその力を発揮し活躍しています。それらをお伝えすることに加えて、未来創造館の状況など、将来に繋がる大学の動きについても紹介することができました。今後も本学の情報をWebサイトなどとも連携しつつ、わかりやすく伝えてまいります。

発行 福山大学  
編集 福山大学広報委員会

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵  
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<https://www.fukuyama-u.ac.jp>